

愛知山岳連盟

発行所 愛知県山岳連盟
 発行人 石川 富康
 編集人 中平等 新一
 名古屋市中白区中平3-1902
 TEL&FAX 052-802-8062

◇ 4月14日(土) 愛知県山岳連盟定時総会(県スポーツ会館) <http://www.geocities.co.jp/Athlete/1653/>

雪山技術講習会に参加のみなさん

PHOTO 中平等新一



第40回岳連親睦スキー大会 絶好のゲレンデに技を競う!!

〜団体優勝は岡崎山岳会A〜

恒例の親睦スキー大会が2月19日(日)、ウイングヒルズ白鳥スキー場で開催された。昨年の1月は、地域によって記録的な豪雪となったが、今年度はそれを上回る大雪であり、しかも、雪質や整備も抜群、おまけに絶好の晴天に恵まれ、理想的な条件での大会となった。

今年度は、昨年まで実施していたイトシロシャロータウンスキー場が営業をしないとのこと、急遽会場及び日程の変更を余儀なくされたが、ウイングヒルズ白鳥スキー場さんから多くのご配慮をいただき、楽しい大会となった。ことに、今まで以上に長い距離をもった貸切バーンや、盛り放題の昼食のカレー、コーヒーのサービス、団体割引1日券の利用など、いくつかの点で参加いただいた会員の方々に喜んでもらえた企画となったことは、主催者としてもうれしい限りであった。

ただ、日程の急な変更で、参加者は29名にとどまった。また、運営側も勝手の分からない会場と言うことで、取り回しが悪い部分も例年以上に

出てしまい、参加者の方々の不興を買う部分もあったのではないかと反省している。今回は日程を早く確定させるとともに、企画内容をもう一工夫し、日程も見直して、より多くの方々に楽しく参加いただけるような大会にしていきたいと思う。

成績は次のとおりです。

〈団体の部〉

- 優勝 岡崎山岳会 A
- 2位 大山山岳会 A
- 3位 愛知県高体連 A

〈個人の部〉

- 優勝 関谷雅樹(愛知県高体連 A)
 - 2位 吉田孝夫(愛知県高体連 A)
 - 3位 鈴木重光(岡崎山岳会 A)
 - 4位 磯村雅仁(岡崎山岳会 A)
 - 5位 伊藤正顕(大山山岳会 A)
- 本大会の賞品につきまして以下の協賛店のご協力を頂きました。紙面を借りて厚く感謝を申し上げます。会員の皆様におかれましては、各協力店の一層のお引き立てをして頂ければ幸いです。

アルパインツアーサービス、
 いば昇、駅前アルプス、
 ステラアルピナ、穂高、
 モンタニア(アイウエオ順)
 (関谷雅樹)

東海四県正副会長・理事長会議

各県の活動状況報告や
遭難救助の課題など協議

理事長 北村憲彦

平成24年3月3日蒲郡荘会議室小島Aにおいて、平成23年度東海4県正副会長・理事長会議が開催された。愛知県が本年度の担当県であり、各県から以下の出席者があった。静岡県 滝田博之会長、塩澤寿雄副会長、木ノ内高嘉理事、三重県 水谷潔会長、亀井正明副会長、門山信男理事、岐阜県 堀井啓介会長、丹羽邦夫副会長、小木曾昭文理事長、愛知県 石川富康会長、富永明孝前副会長、北村憲彦理事長

15時から16時30分まで各県の平成23年度の活動状況や遭難救助の実態などについて報告があった。静岡からは指導員活動の課題、富士山などの遭難のこと、三重岳連からは、22件の山岳救助活動を警察と消防とも協力して行われたことについて実情が報告された。岐阜県からは防災ヘリコプター墜落事故後の登山届けポスト設置や一般の登山者向けの事故防止の講習会活動などが報告された。愛知県からは三重県との共催で行った少年少女登山教室、県民登山を通じた

登山事故防止活動、指導員の講習会の様子などをお伝えした。

16時30分から17時10分迄、共通の課題事項の討議を行った。一般の登山者が十分な備えなしに遭難する場合に、岳連としてどのように救助へ協力するのか、救助隊メンバーの万一の二重遭難に対する保険なども課題であることが話し合われた。若い人は指導員にならず、指導員の高齢化や資質の維持・向上についても各県ともに苦勞している実態が挙げられた。高校生の活発な学校の偏りや高校の山岳部の減少なども課題とのことであった。愛知県としては、遭難者の送り出し県として、他3県には迷惑をかけている。これまで以上に一般登山者の遭難防止活動に力を尽くす必要があり、そのためにも登山指導員の育成に力を入れるべきであると感じている。平成24年度は岐阜国体、愛知ミニ国体（東海ブロック大会）も予定されており、一層の近県での協力を進めることも確認された。

愛知岳連雪山技術研修会・講習会

一日間で雪の豊富な大日ヶ岳で実施
雪洞掘りやビバーク体験なども...

3月3日～4日の2日間、愛知岳連雪山技術研修会・講習会が大日ヶ岳で実施され、15団体から37人（内、受講生23人）が参加した。

初日3日は、朝から好天に恵まれ、9時高鷲スノーパーク・ゴンドラ頂上駅前で開講式が行われ、木田指導委員長挨拶で始められた。講習は、Aコース・Bコース4班に分けられ、それぞれ現場に向かった。

Aコースは「雪山登山における装備と歩行技術の習得」をテーマに、装備のチェック、アイゼン歩行では余裕があるうちに斜面の山側に向かって付ける。アイゼンの爪を駆使した歩き、又、ビッケル操作など学ぶ。



斜面で雪洞を掘る

午後には頂上を目指し、途中で滑落停止、急斜面でのトラバース、登降など繰り返した。

Bコースは「雪山での確保技術の習得」として、アンカー支点の作成、様々な支点の取り方や強度確認などを行い、ビバークのための雪洞を頂上付近の斜面を利用して掘り方を学んだ。

そして、夜はこの雪洞を利用して12人がビバークを体験した。

翌4日は、日の出は見られなかったものの急速に天気は崩れホワイトアウト状態になる。そんな中で7時から講習が続けられた。

弱層テストで雪質の観察、雪崩の予防知識、ビーコン操作では機種ごとに機能の違い、電波誘導法、直角法を習い、実際に斜面上で行われた。また、スタンディングアックス、ブレイドでは、セルフブレイクアンカーの構築、ロープのさばき、確保姿勢と制動コントロール、墜落を止めた後の仮固定などを学ぶ。

他方では、自傷者の梱包の仕方、搬送方法を行った。保温、断熱、衝撃吸収などを考慮し、搬送中に要救助者が梱包



負傷者を搬送する

材とスレ動かないように梱包して、雪面上をロープ・スリングで引いて搬送する作業を行った。

13時、天候が悪化し出したので終了することになった。閉講式では、各担当講師から感想が述べられ、岳連を代表して中平等副会長、木田指導委員長が挨拶をして、講習会は無事終了した。

なお、講師を担当した方々は次のとおりです。

- 木田光彦（アイシン）坂口公美（春日井）中山秀樹（豊橋）高橋優、吉村賢、有富保之（名古屋山岳会）高木宏（GSA）久山立、久山千春（豊田）西村英樹（千種）金田博秋（三河）内田博昭（やまびこ）丹羽史策（MMC岡崎）

常任理事会

- 2月7日（火）いば昇（出席者）石川会長、安藤、中平等副会長、北村理事長、